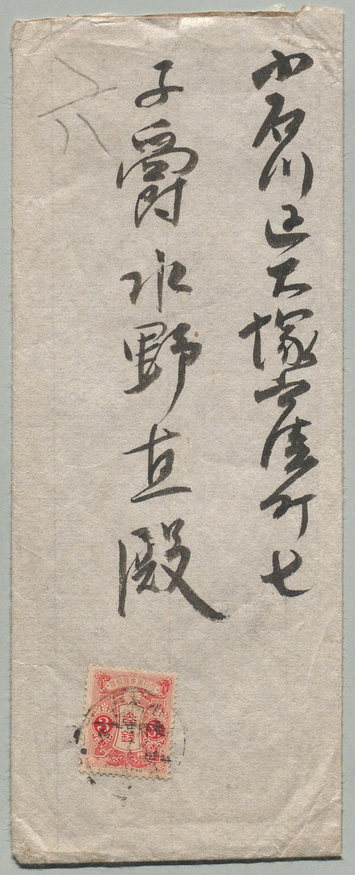
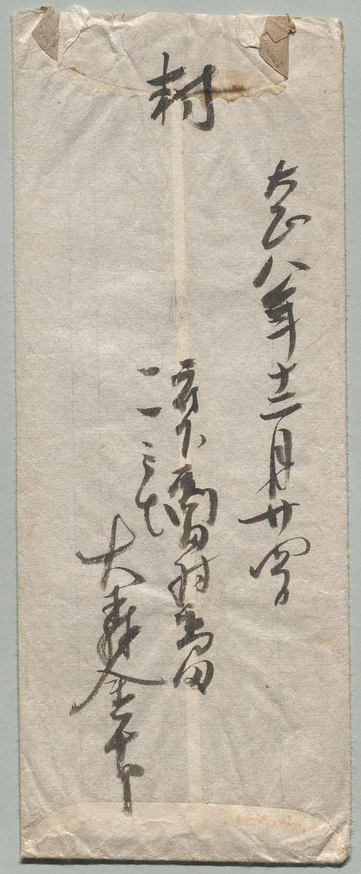
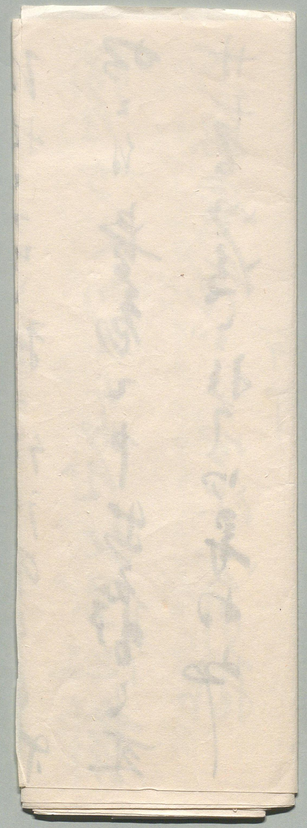


国立国会図書館　水野直関係文書 134-2



国立国会図書館　水野直関係文書 134-2



国立国会図書館　水野直関係文書 134-2

屋ニ来りて教員や教授上
のことは関係することあらず
おゝかき南日教授の曰く「まれな
らは宜しけれども陸長が
二人出来たるやうにては我々
は事務を取扱ふ上に於て
通信する事を知らずして
大に難義事」とこゝ
陸長は人ら思ふ花主義にて
高等官（奏任）の一級俸を吻はるも
のを出名す作りなり是等
は教務主任とか新科長とかにて
まだこれのなり平教員に対
しては不相変冷遇の有様
なりと、
脩氏は今度勅任官とあり
たまも小柳氏は選にもれなり
二人なり得るに関らず小柳氏
を世ず吉田好太郎か其他忠
勤を抽でたるものをするゐ
に此の一位置を大切に握り
ゐるべしとやるとか
之ら当のみ等し
大正八年三月廿四日　大森重弟